

立命館経済學

第二十卷 第二号

昭和四十六年六月

内 容

論 説

独占利潤論の論理構成……………坂 本 和 一 1
——『資本論』の論理規定具体化の一つの試み——

搾取論・剰余価値論の論理……………甲 賀 光 秀 72

研 究

ウィリアム・ベティの経済理論(中)……………稲 村 勲 100
——市民革命経済理論の形成——

共同研究室…………… 139

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第十九卷・第六号

相澤先生をお送りする言葉……………足立政男

論説

マルクス経済学における数学利用……………建林正喜

河上肇と古典派経済学……………杉原四郎

アルチュセールのマルクス主義論……………重田晃一

München市財政の現況と問題点……………加藤睦夫

『帝国主義論』における段階規定……………島津秀典

研究

ウイリアム・ベティの経済理論……………稲村勲

資料

社会主義のもとの

「使用価値と価値」(二)……………芦田文夫

私の履歴書……………相澤秀一

相澤秀一教授略歴・主要著作目録

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第二十卷・第一号

論説

(続) 戦時労働市場に関する研究……………三好正巳

——「農工調整」問題を中心として——

独占段階における独自の・資本制的

生産様式の形成(続)……………坂本和一

——八幡製鉄所を事例とする具体的分析(二)——

翻訳

エヌ・エス・シューフ「社会主義経済

の目的関数の問題によせて——いく

つかの歴史的局面——……………小野一郎

発行所 立命館大学経済学会